



シマフクロウ シンポジウム

シマフクロウに象徴される生態系を育む、国有林30年の取組

日 時：令和6年10月26日(土)
13時00分～16時00分

場 所：札幌市男女共同参画センター 3階ホール
(札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内)

定 員：220名 (入場無料)

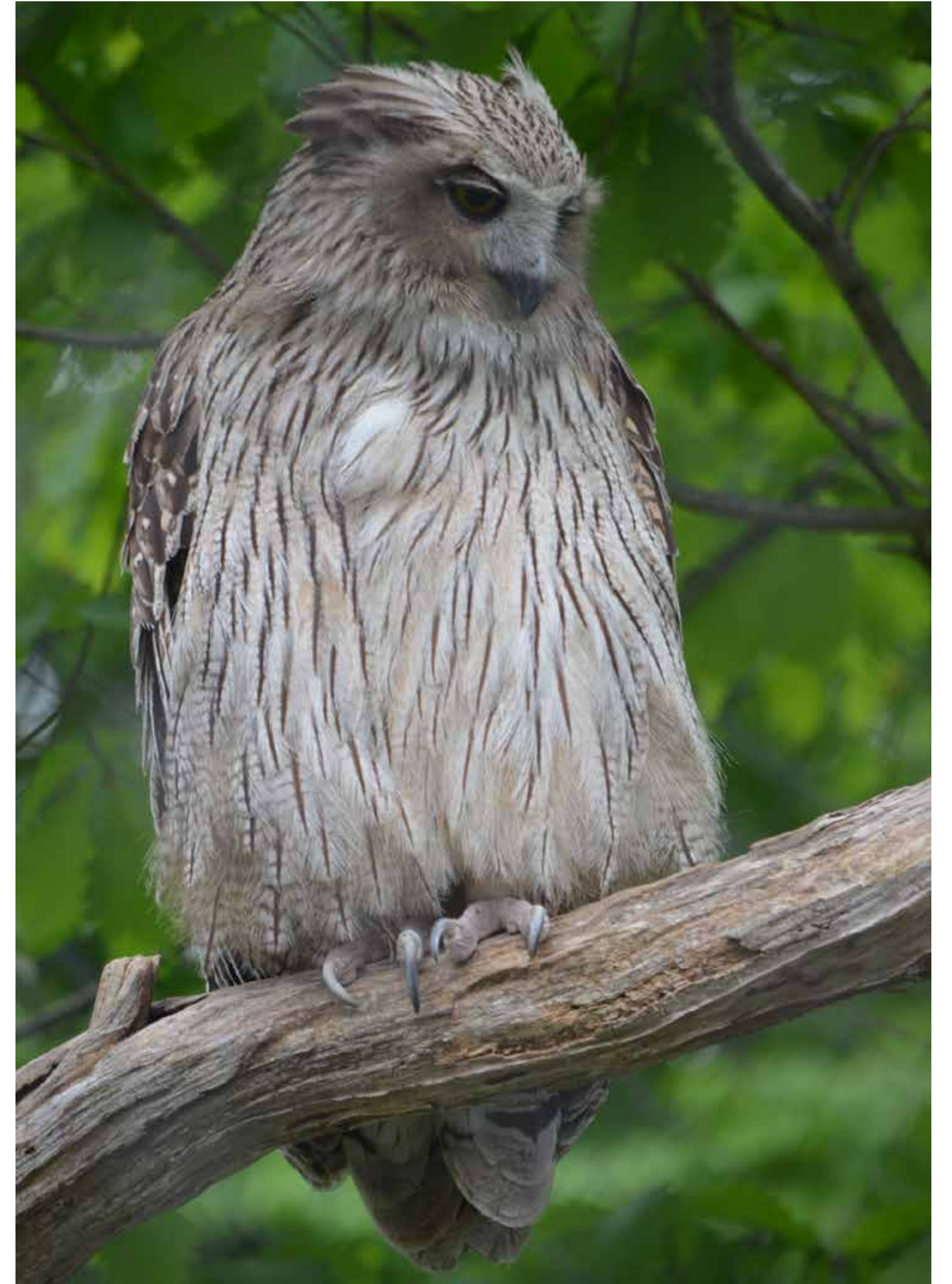
北海道森林管理局がこれまでシマフクロウ保全のために実施してきた取組を広く紹介していくとともに、シマフクロウ保護の専門家を交えてこうした取組の内容を検証します。そして、今後の国有林としての取組方向や、関係機関や一般の方との協力の在り方を検討していきます。

シマフクロウって？

- 国内^{きしょう}希少野生動植物種（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）
- アイヌ語名：コタン・コ（ロ）・カムイ（集落を守る神）など

シマフクロウは元々、北海道全域に加え、樺太や千島列島南部に生息していました。しかし、その後、営巣のための広葉樹の巨木が減少し、採餌環境も悪化していったことから、年々その生息数が減少していきました。このため、現在、北海道内ではシマフクロウは、道東を中心とした一部の地域にしか生息していません。

英語名でFish owl（魚ふくろう）と名付けられているとおり、シマフクロウは主として魚を捕食しています。このため、シマフクロウが生息していくためには、淡水魚が多く生育できるような河川（溪流）環境が必要になっています。



餌となる魚は主にハナカジカやオショロコマといった淡水魚です。加えて、海岸の浅瀬で海水魚を捕食することもあるようですし、春先に産卵地に集まったエゾアカガエルや、小型の哺乳類や鳥類を捕食することもあります。

シマフクロウが営巣するためには、直径100cm以上の広葉樹の巨木の洞（うろ）が必要です。また、子育てにも大量の淡水魚の餌が必要となってきます。このような条件を満たした生息環境の減少が生息数を減らしてきた主な要因です。

また、カメラ撮影をはじめとする人為由来のストレスや、ヒナの時期にエゾクロテンに襲われることも、生息数が回復しにくい要因として挙げられます。

北海道森林管理局は1993年から、有識者や関係機関と連携しながら、シマフクロウの保護増殖に取り組んでいます。具体的には、シマフクロウが生息する天然林の保護や人工林の間伐を進めたり、魚類の移動が容易になるよう河川（溪流）工作物を改良したりすることで、採餌環境の改善に努めています。また、将来的に営巣木となるような広葉樹の保全・育成に努めるとともに、巣箱の設置を進めることで、営巣環境の創出に取り組んでいます。

現在、北海道内にはおおむね100つがいのシマフクロウが生息しています。今後とも、シマフクロウが生息する豊かな森林生態系づくりに取り組んでいきます。

シマフクロウ



交通事故に遭ったシマフクロウ

残念なことにシマフクロウが交通事故に遭う事例が後を絶ちません。



シマフクロウに配慮した森林施業

北海道森林管理局では、シマフクロウの生息する国有林において、その生息に配慮した森林施業に取り組んでいます。例えば、林道沿いの立木を保全することによって、シマフクロウが林道上に近づかないようにして、車両との衝突を回避するよう工夫したりしています。



＜施業前＞



＜施業後＞



きゅうじ 給餌池の設置

北海道森林管理局では、シマフクロウの生息のため、専門家の意見を聞いた上で、給餌池きゅうじの設置に取り組んでいます。

＜作成中＞



＜完成＞



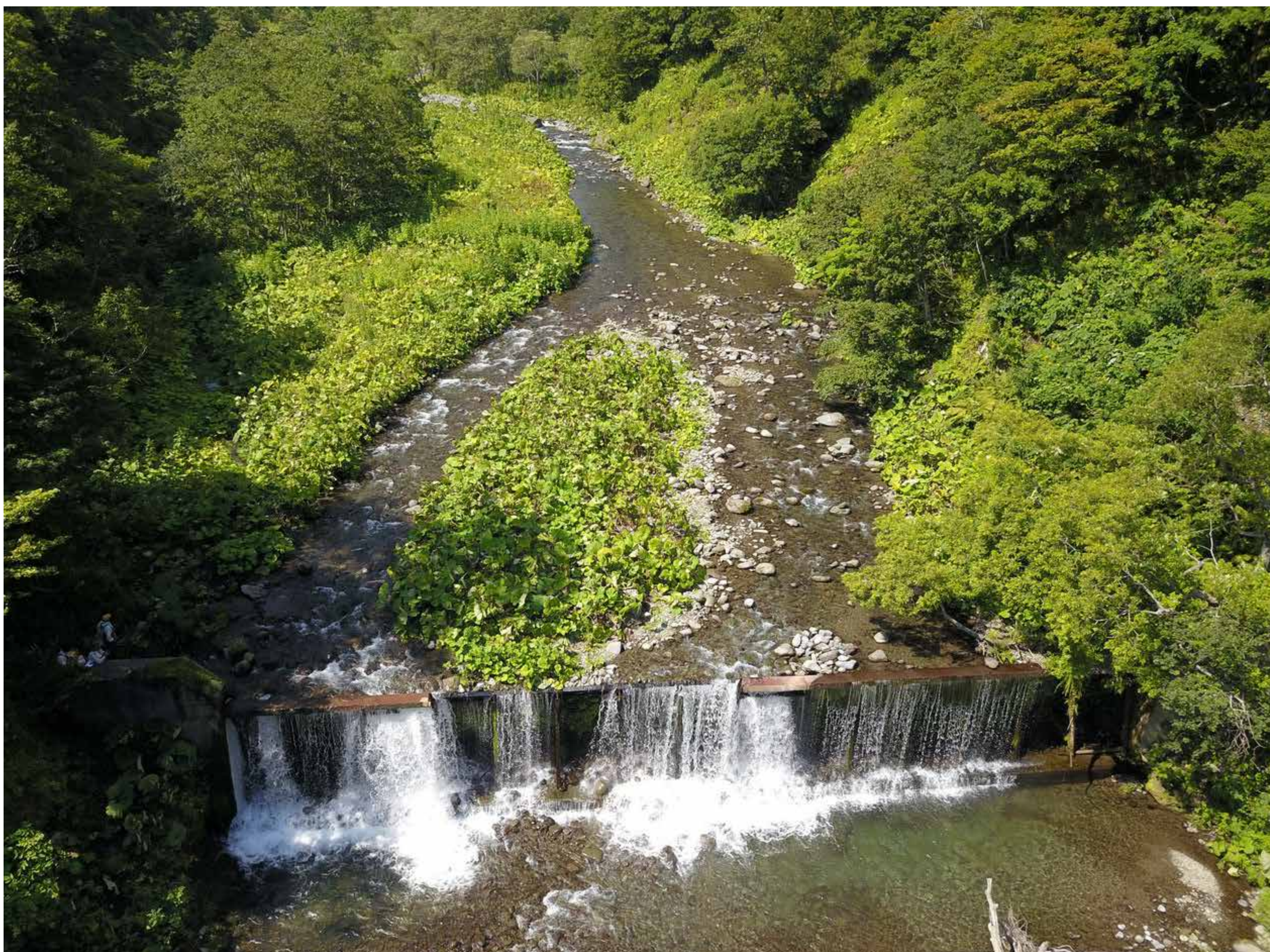
きゅうじ
給餌池の整備をしています



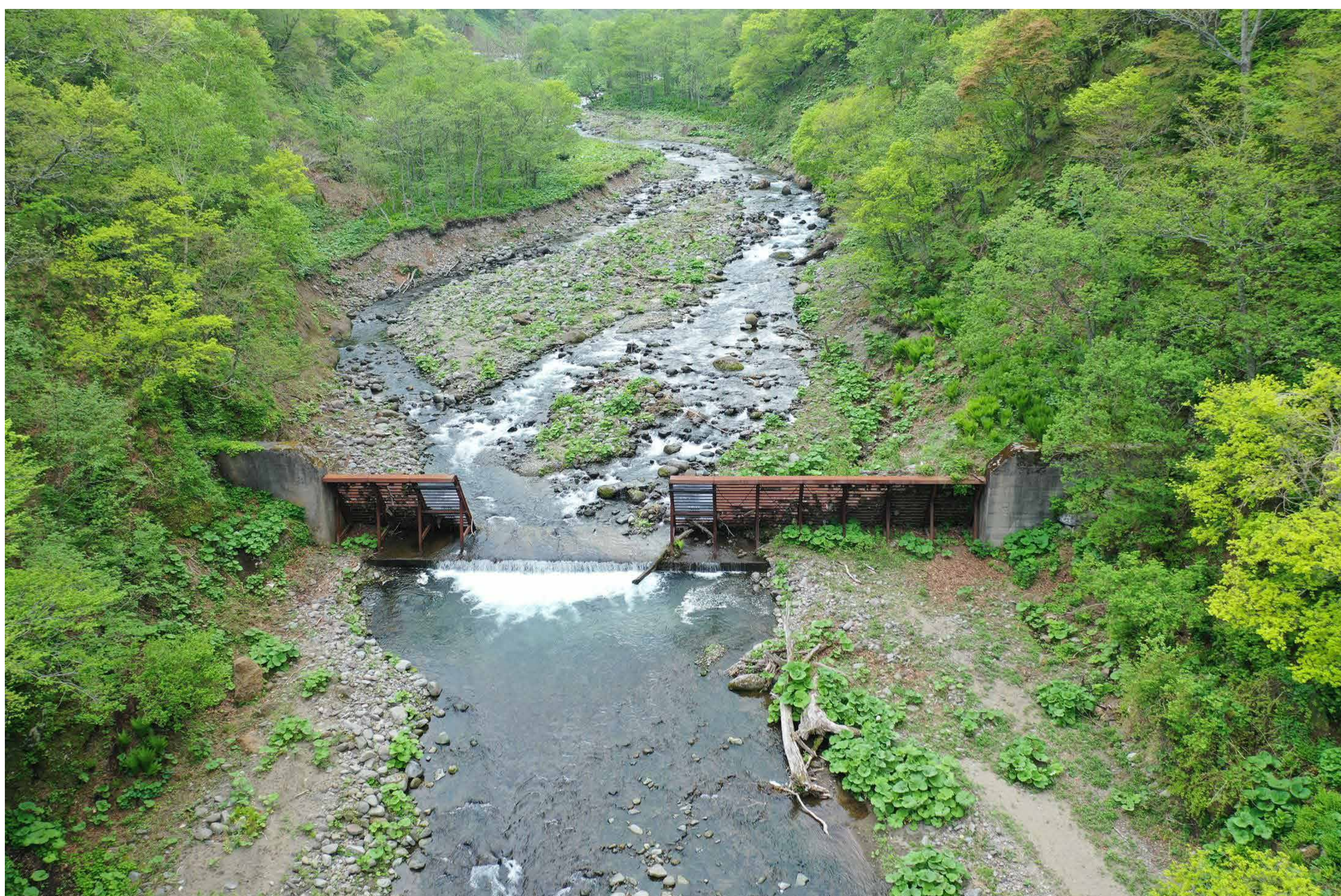
サケ科魚類の^{そじょう}遡上環境の整備

サケ科魚類の自由な移動が出来るよう河川工作物を改良し、^{そじょう}遡上環境を整備しています。こうした取り組みを通じて、シマフクロウの^{さいじ}採餌環境が改善されていくことが期待されます。

＜改良前＞



＜改良後＞



標識調査

環境省や専門家とともにシマフクロウのヒナの標識調査を行っています。この標識を使って、シマフクロウの生息状況をモニタリングしています。



シマフクロウのための巣箱の設置を進めています



シマフクロウ大集合



魚を捕まえたよ!!



写真提供：竹中 健 氏（自動撮影カメラ）

川辺を歩いていることも・・・

